



土用の丑の日と「うなぎのかば焼き」



- 家計調査結果より -

今夏の「土用の丑の日」は7月20日と8月1日です。このように年によっては夏の「土用の丑の日」が2回ある場合がありますが、この場合、1回目を「一の丑」、2回目を「二の丑」といいます。丑の日にうなぎを食べるようになった由来は諸説ありますが、江戸時代の蘭学者平賀源内が、夏に売り上げが伸びず困っていたうなぎ屋のために「丑の日にちなみ『う』から始まる食べ物を食べると夏負けしない」という風習を利用して「本日、丑の日」と店頭に書いて張り出したところ繁盛した、という説は有名です。現在では、ビタミンやDHA等、栄養豊富なうなぎを夏バテ防止食材として食べることが定着しています。

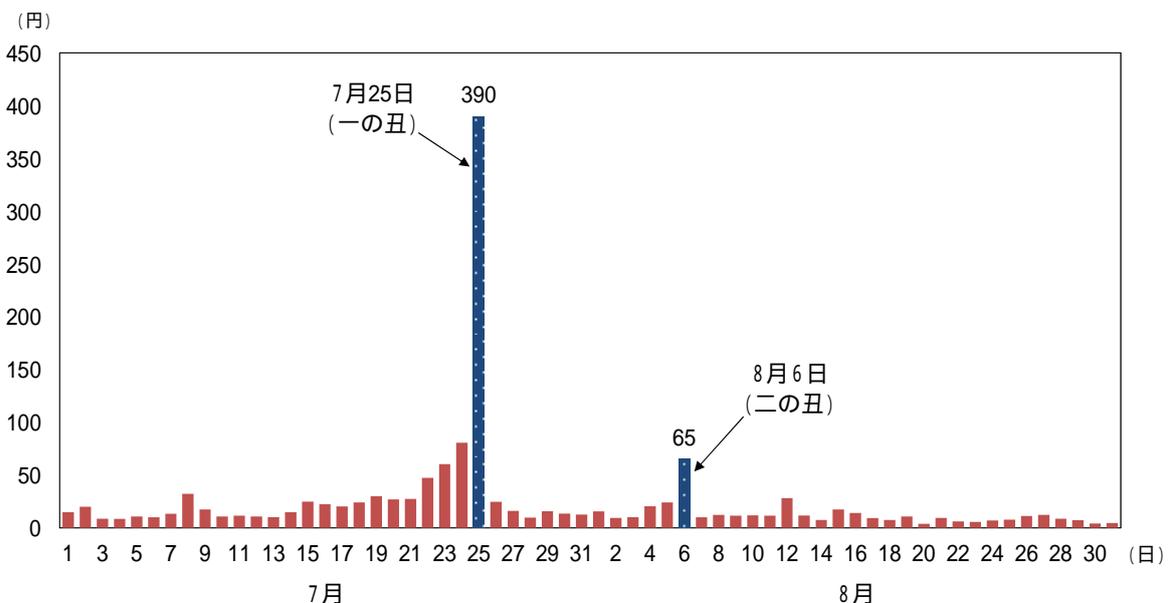
ここ数年、うなぎの国内漁獲量及び輸入量は減少傾向にある上に、市場での取引価格も高騰していることから、今夏も品薄・高値で出回ることが予想されています。そこで今回は、家計調査の結果（二人以上の世帯）から、「うなぎのかば焼き」^{注）}の支出を見てみましょう。

注）家計調査結果の「うなぎのかば焼き」は、外食、冷凍、缶詰のうなぎ関連の支出は含みません。

土用の丑の日に増える「うなぎのかば焼き」の支出金額

まず、2017年7月及び8月の「うなぎのかば焼き」の1世帯当たりの支出金額を日別にみると、土用の丑の日に当たる7月25日（一の丑）が390円、8月6日（二の丑）が65円と、同じ月の他の日に比べて特になくなっていきます。さらに、7月の「うなぎのかば焼き」の支出金額（1,043円）は年間（2,796円）の37.3%を占めており、他の月の平均（159円）よりも特になくなっていきます（図1）。

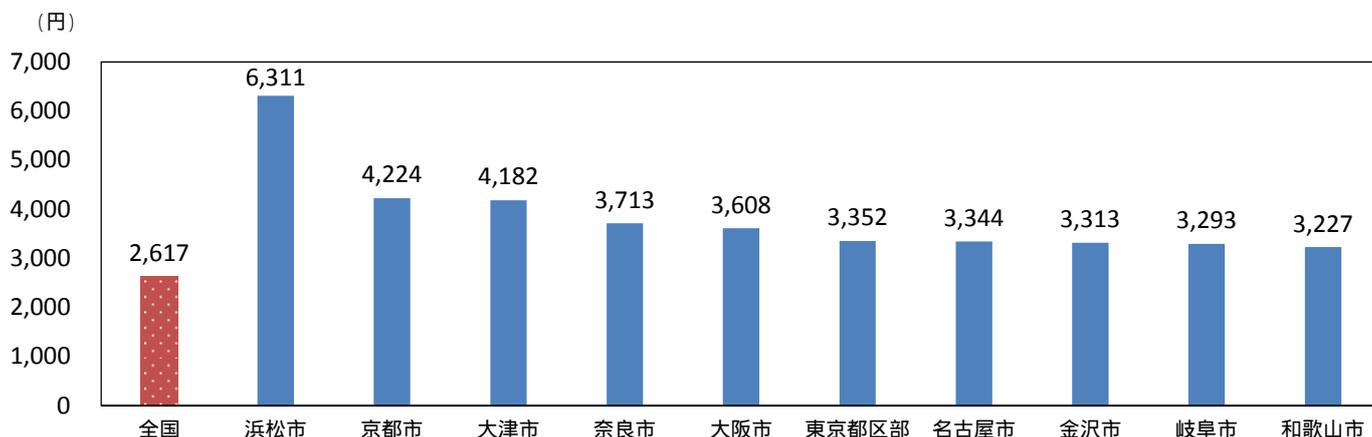
図1 1世帯当たり「うなぎのかば焼き」の日別支出金額（2017年7月及び8月）



「うなぎのかば焼き」の支出金額が多いのは浜松市

では、どこの地域で支出が多くなっているのでしょうか。都道府県庁所在市及び政令指定都市別にみると、浜松市が6,311円と最も多く、次いで京都市が4,224円、大津市が4,182円となっており、支出金額の上位には、東海・近畿地方の都市が多くなっています（図2）。

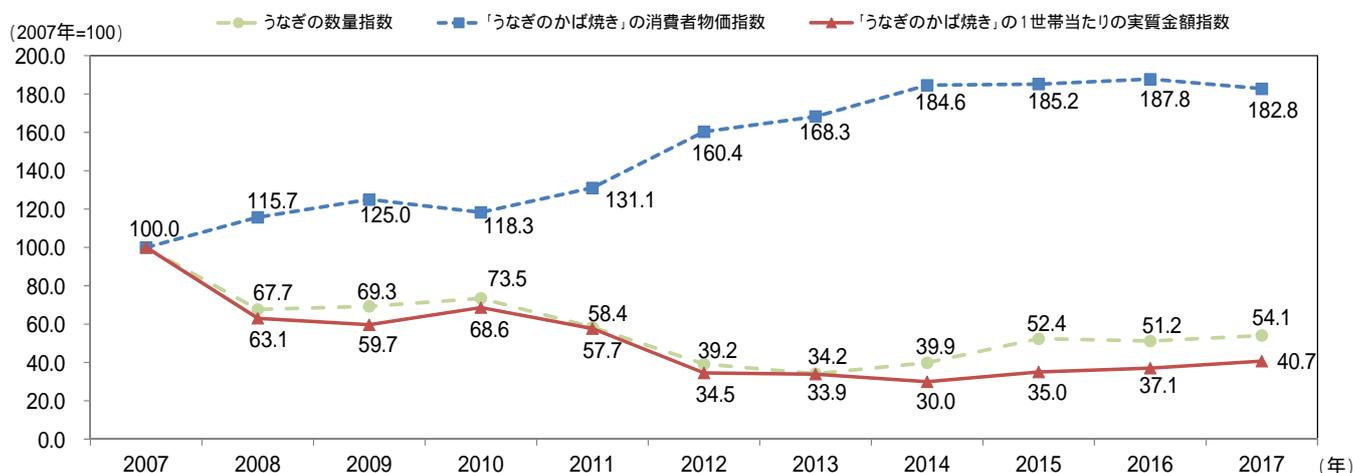
図2 「うなぎのかば焼き」の1世帯当たり年間支出額の都道府県庁所在市及び政令指定都市別ランキング（2015～2017年平均）



「うなぎのかば焼き」の支出金額は実質で10年前の4割（5分の2）に減少

最後に、うなぎの供給量、「うなぎのかば焼き」の価格と世帯の支出金額を関連統計で見てみましょう。10年前の2007年と比較すると、「うなぎの数量指数」^注は54.1と約5割（半分）まで減少しており、「うなぎのかば焼き」の消費者物価指数は182.8と価格は約8割上昇しています。また、1世帯当たりの「うなぎのかば焼き」の支出金額は価格の上昇分を除いた実質金額指数で40.7と10年前の約4割（5分の2）まで減少しています（図3）。

図3 うなぎの数量指数^注、「うなぎのかば焼き」の消費者物価指数及び1世帯当たりの実質金額指数の推移（2007～2017年）



注) 国内の「漁獲生産量」及び「養殖生産量」並びに「輸入量」を足し上げたものを「うなぎの数量」とし、指数化した。
(農林水産省「漁業・養殖業生産統計」,「農林水産物輸出入統計」(平成19～29年)より加工。)